

(書評)

## さらなる世界への文化の発信を『創発』に期待する

藤本 文朗\*

2009年10月2日受理

まずは私の退職を期に記念特集出していただき秋葉英則、清水寛、津止正敏、黒田学の諸先生の一文をのせていただき身にあまる思いである。また、野村朋ら、私の京都の宅までインタビューしていただき、スズ虫の声とともに私の研究の姿勢について聞いていただき楽しい一文となりました。10回の加筆を許していただき、今の研究の基点になったお礼申し上げます。100部の抜きずりもこの半年でなくなり、コピーしている状況である。追加して今とりくんでいる研究テーマは、①高齢者介護技術と実践論、②障害をもつ人々の参政権、研究(知的障害をもつ人々の大学校づくり—実践)です。

全体について私の三度読んでの感想は、若い人が育ちつつあると思った。注文をつけるとしたら教授の人は全員、オリジナル論文を執筆して全国に世界に発信することを期待したい。

74歳の私のことばである。研究は死ぬまですべきであると思うが、「人生は短かく、学問は長し」。

最後になるが、若い人に①古川氏の論文のように基礎研究(歴史思想など)やれ、②古典の学習を(欧文で)③現場実践を学ぶはいいが、器用にまとめて論文にするな④若い内から概論書をかくな、オリジナルな論文をかけ、⑤率直に批判してくれる研究集団をもって論争し、自分の発達し栄養にせよ。

私は90歳まで生きて『創発』の書評をかきたい。

今年も立秋、スズ虫の鳴くころとなってきた。

---

\* 東山の福祉と革新の源流を探る懇談会  
連絡先：藤本文朗  
〒605-0953 京都市東山区今熊野南日吉町13  
Tel & Fax 075-541-5270